

こんなとき、どうする？

突然の病気やケガ



判断できない

／小児はこちら／

救急安心センターおおさか

☎ # 7119

または、
06-6582-7119

開設時間：24時間365日

医師の支援体制のもと
看護師が救急医療相談や、
症状に応じた救急病院を
案内します。

小児救急支援アプリ



お子様の突然の病気やケガで
困ったときに「緊急性」を判断し、
症状に応じた近くの医療機関を
地図に表示します。

急病や事故に遭遇



応急手当がわからない
自信がない

救命サポートアプリ



いざというときに応急手当が
実施できるよう、音声と映像で
心肺蘇生法を手助けします。
成人だけでなく小児・乳児にも
対応しています。



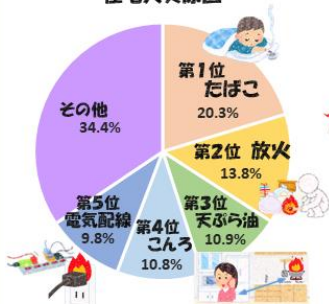
大阪市消防局
Osaka Municipal Fire Department

住まいの防火・防災 リーフレット



住宅での火災

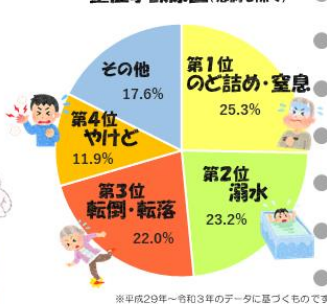
住宅火災原因



住宅火災による死者の
8割が高齢者です！

住宅での事故

重症事故原因(急病を除く)



※平成29年～令和3年のデータに基づくものです
救急事故の約半数が
住宅で発生しています！

大阪市消防局では、消防職員があなたのお宅を訪問(ご本人の同意が必要)し、
7口の視点から防火・防災に関するアドバイスをいたします！



防火・防災について、何をしたらいいかわからない...



そんな時は...

消防職員による住まいの防火・防災診断

あのお宅、火事になりそうで危ないねん！
消防にみてもらた方がいいんちゃう？

裏面へ



ご希望の方は、お住まいの区の消防署へご連絡を！

詳細はこちらをご覧ください

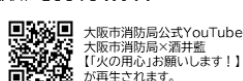


火災予防対策

～火災を早く知るために～

① 住宅用火災警報器

- ◆消防法により、すべての住宅への設置が義務付けられています。
- ◆設置場所は寝室、台所、条件により階段、廊下にも必要です。
- ◆定期的に点検し、10年を目安に交換しましょう。
- ◆作動した警報器から他の警報器へ連動させて警報を行うものやCO(一酸化炭素)を検知できるものもあります。



大阪市消防局公式YouTube
大阪市消防局×酒井監
【火の用心】お願いします！
が再生されます。

～火災を広げないために～

② 防災品

- ◆寝具やカーテン、布製ブラインド、じゅうたん等は、燃えにくい性能(防火性能)を有するものを使用しましょう。



防火品のラベル例

～火災を消すために～

③ 住宅用消火器

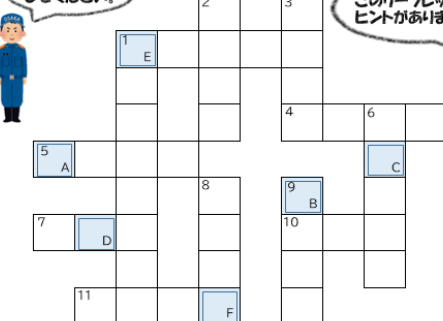
- ◆色・デザインが豊富で、好みにあったものを選べます。
- ◆軽量でホースがないものもあり、操作が簡単です。
- ◆ホームセンターやインターネット通販等で購入できます。
- ◆定期的に点検し、5年を目安に交換しましょう。



消防局見学ツアーが当たる！

クロスワード・パズルに挑戦しよう！

カタカで記入してください。



このリーフレット内にヒントがあります。

「A B C D E F」をお願いします！

タテのかぎ

ヨコのかぎ

- 〇〇〇〇〇〇〇〇による死者の8割が高齢者
ヒント！住宅での火災
- 燃えにくい性能のことを〇〇〇〇性能
ヒント！火災予防対策②
- 救命サポートアプリは、音声と映像で〇〇〇蘇生法をサポートする
ヒント！こんなとき、どうする？
- 火を消す設備は「住宅用〇〇〇〇〇〇」
ヒント！火災予防対策③
- 突然の病気やケガで困ったときに電話するのは、救急〇〇〇〇センターおおさか
ヒント！こんなとき、どうする？
- 子どもの手の届かないところに置くのは、熱い〇〇〇〇やボット
ヒント！事故予防対策④
- 住宅用火災警報器の交換サイクルは？
ヒント！火災予防対策①
- 入浴を控えた方がよいのは、〇〇〇〇後！
ヒント！事故予防対策②
- 冬は脱衣所をこれで温めておこう
ヒント！事故予防対策②
- 住宅火災原因第2位
ヒント！住宅での火災
- 子どもが誤って口ににいれそうなものは〇〇〇に置かない
ヒント！事故予防対策①
- 熱中症防止のため、こまめに〇〇〇〇・塩分を補給しましょう
ヒント！事故予防対策⑤

正解者の中から抽選で、消防局見学ツアーにご招待します！

消防局見学ツアーでは、119番通報を着信している「指令情報センター」の見学や、様々な消防車や資器材の展示、装備の着装など体験できます。



詳細や応募はこちらから

事故予防対策

① のど詰め・窒息を防ぐために

- ◆もちやパンなど、のどに詰まりやすいものは小さく切って食べる。
- ◆硬貨やスーパーボールなど、子どもが誤って口に入れそうなものは身近に置かない。



② 風呂場での事故を防ぐために

- ◆体調が万全でない時や飲酒後は入浴を控える。
- ◆冬はヒーターやシャワーなどで脱衣所や浴室を温めておく。
- ◆小さな子どもは目を離さない。



③ 転倒・転落を防ぐために

- ◆部屋の中は段差を少なくする。
- ◆床に新聞紙などのすべりやすいものを置かない。
- ◆階段まわりは明るく、すべり止めや手すりをつける。
- ◆小さな子どもがいる家庭では、ベランダや出窓の近くに踏み台になるようなものを置かない。



④ やけどを防ぐために

- ◆熱い飲み物やボットなどは子どもの手の届かないところに置く。
- ◆こんろを使う時は袖や裾が広がっている衣服を着ない。



⑤ 熱中症を防ぐために

- ◆こまめに水分・塩分を補給する。
- ◆がまんせず、エアコンなどを積極的に使用する。

